から、一方は積極的に合同すべきであることを主張し、他方は合同反対を叫んだので、あるかくして組合内の意見は全く混乱に陥って了った。何故そうした混乱を即刻克服し得なかったか？ それは、わが総評議が、結成日尚淺く、この問題に対して充分の大衆的討論を為すいとまなく、且つ強力なる指導部が確立されてゐなかったがためである。勿論わが総評議会にみなぎる左翼激気魄によって、その後一切の欽陥は除去されたが、当時わが総評議会が合同問題のために大打撃を受けたことは否みがたい事実である。

三、本部の移転

合同問題後の数ヶ月間は、わが総評議会の総本部は事実有名無實の存在であった。一切の日常斗争は地方評議会の手によって指導され、本部は僅かに、各地の聯絡を推持してゐたに過ぎない。だがその内に徐々に、各地方評議会の間に聯帯意識が復活して来た『総評本部を確立すべきだ』と云ふ声が段々と高らかに叫ばれるやふになって来た。もとく多年鉄火の試練の中を共に手をたづさへて切り抜けて来た同志だ！一時意見のソゴを来たしはしたが奥深くひそんでゐた同志愛と大左翼労働組合確立に対する階級的義公意識が強く各地の指導者たちの間に蘇って来たのだ、かくして、総評本部の更新の具体案が各地方評議会の代表者によって協議され、旧執行委員は全部辞任し、新たに各地方評議会から二名づゝの執行委員を選出し、総評本部を関東、関西の中間地帯である名古屋へ移すに至ったのである。（本部の移転、新執行委員の選出等は規約によれば大会に於て決定すべき事項であるが当時の事情が上述のやうな具合で、あったので万止むを得なかったのである）。

四、小田、飯石等の脱落

本部移転后、各地の聯絡は急速にヒンパンになり従来多少感情的なコダワリのあったのも全く一掃され総評の旗は再び断然輝き始めた、ところがわが総評議会が猛然たる勢ひを以って驀進し初めたとき、意外にも吾々の陣営から劣しむべき二三の裏切者が飛びだすに至った、小田、飯石、等がそれだ。だが彼等の転落は我々の陣営に微動をも与へなかった。我々のすべては彼等を『あわれむべき人間共だ』と感じたに過ぎない。